

定輪寺 百韻奉納式典

十一月二十一日

宗祇の時代、連歌といえは百韻（百句連ねて一巻とするもの）であったことから、百韻を巻くことで、宗祇を偲び宗祇の眠る定輪寺に奉納させて頂きました。

全国の宗祇ゆかりの連句結社、十四社の皆さまからも、奉納百韻にご参加を頂き、ともに宗祇法師に心を重ねることができました。また裾野図書館俳句会からは献句を頂きました。



当日は、奉書に墨書きして頂いた作品に金銀の水引で形を整えた上、桐の箱に納め、心を込めて奉納させて頂きました。



式典では、読経に続き、密を避け、佐野仙由様による献茶、水野陽瑠様の吟詠、花月乙千寿様の日本舞踊が華を添えてくださいました。

尚、奉納作品は冊子にまとめ刊行いたしました。



連句講演会

「紡ぐ言霊・紡ぐ人の和」

十月三十日



魔力、美しき、前句から受けた閃きを紡いでゆく意外な展開、イメージの豊かさなど、奥深い言の葉の世界が披露されました。

会場からは、「三人の連句にのめり込んでゆく楽しいやり取りに私達も引き込まれながら、豊かな時間を共有することができた。」との感想をいただきました。

多くの人に連句の魅力を伝えたいという想いが一つの形となりました。

裾野市民文化センターにて、詩歌の達人、文芸評論家三浦雅士氏、歌人小島ゆかり氏、俳人長谷川權氏による講演会がおよそ百五十人あまりの市内外のお客様を迎え開催されました。

三人が予め巻いてくださった歌仙を中心に、その句の背景、インスピレーションなどを数々の絵画、文学作品などを示しながら語ってくださいました。言葉のもつ不思議な

